

## はまなす色の思い出

看護福祉学部  
看護学科

准教授 杉田 久子



「君がうて 希望の鐘を エルムのまちに」は、第25回全国身体障害者スポーツ大会(当時)「はまなす大会」のスローガンです(1989年9月30日、10月1日開催)。私は、大会コンパニオンとして手話通訳を担当しました。

看護短大(当時)に入学して間もなく、北海道知事からの協力要請で、正規課程外に組まれた手話講座をクラスメイト全員で受講することになりました。手話は



競技場のスタンド席に向けて手話通訳中。  
(当時は看護2年生)

未経験で、大会まで1年半。単位認定がないこの講座に、意欲溢れる学生は一人もいなくて、皆、負担感いっぱいでした。

初めは指文字で五十音を覚えます。自分の名前、簡単な挨拶表現はすぐにできました。メールやLINE等がない時代ですから、授業中に手話を使って連絡事項を伝えあうなど、便利に活用したものです。次第に授業が忙しくなり、試験が近づき、思うように時間が使えなくなると、殆ど上達しなくなり挫折感に襲われます。一人、二人と辞退者が出ていきました。

最終的に40名が手話コンパニオンに任命されました。即位されたばかりの天皇、皇后両陛下をお迎えするため、式典の手話通訳は重要任務です。大会直前には手話合宿が生まれ、毎晩遅くまで練習しました。

はまなす色のユニホームを着て、競技場のスタンドに立った時は、緊張で足が震え、



選手団の皆さんと後夜祭の大通公園で。  
中央(左から3番目)が私。

心が折れそうになりました。そんな時、手話で「ありがとう」とお礼を下さる方がいて、「伝わったのだ」と安堵しました。次第に手話を目当てにする方達に囲まれ、明るくて、感情豊かな選手団の皆さんと交流することができ、感動もひとしおでした。

当時は、障害をもつ人への理解も資源も十分ではありませんでした。この「はまなす大会」が障害者の福祉に資する意義は大きかったと考えます。この体験から四半世紀を超え、看護と福祉が融合した看護福祉学部で学生さんを支援できることに何かのご縁を

感じます。私の看護学生時代は挫折と感動のはまなす色でした。

最後に、必死で覚えた手話ですが、今では「あ、い、う、え、お」の指文字が精一杯です。

## 私の学生時代

今、本学の教壇に立たれている先生たちは、学生時代をどのように過ごしていたのでしょうか。今回は杉田 久子准教授と上野 武治教授のお二人に、当時の様子を語っていただきました。

## 寮生活の6年

リハビリテーション科学部  
作業療法学科

教授 上野 武治



私の大学生生活は1962~1968年の6年間ですが、この間、2つの寮で暮らしました。いずれの寮も2人部屋で、毎年、くじで部屋と相手を決めていました。

最初の4年は父の勤務の関係で、北22条西9丁目にあった鉄道弘済会の学生寮です。この寮は定員30名(3年目から50名)



1年目のGW、北星の女子寮生と合ハイ、十五島公園で一緒に豚汁を作る。(前列右から3人目が私)

で、「国鉄職員の子弟を“大事に”預かる」をモットーに、国鉄のOBが「寮長」として住み込んでいました。その後の2年は、当時、北14条西2丁目にあった北大の学部寮(北学寮)です。この寮は寮生大会で何事も決める自治寮で、経済的には苦しい学生が多いものの皆さん逞しく、寮内は自由な空気に満ちていました。

この中で最も印象が鮮明なのはやはり1年生の時です。3月末、決められた部屋に入って驚いたのは、部屋の先輩の机や本棚が本でピシッリ覆われていたことです。文系のまだ2年生でしたが、大学生はこんなに本を読むのかと感動したものでした。さらに、この寮には、1年生は「ゴールデンウィークに市内女子学生寮の1年生と合ハイ(合同ハイキングのこと)を行う」とか、「藻岩山の山開きの深夜12時に寮を発ち、山に登る」などの伝統がありましたが、これらは新入寮生同士のつながりを強める配慮でした。当時の3、4年生は60年安



1964年の3年時、原水爆禁止世界大会で広島に行き、被爆の実態を知るが、今も世界各地で「ヒバクシャ」が生まれ、また、当時米軍がベトナム南部に撒いていた枯葉剤は今も3世代300万人を超える住民に深刻な健康被害を与えている。(正面左から3人目、挨拶しているのが私)

保の渦中にいた世代で、学部の勉強や卒論実験、就職活動に追われていましたが、こうした先輩の話から「就職に臨むとはこのようなことか」と感ずることもしばしばで、皆さん、本当に大人でした。また、学部が決まり、専門を深めるごとに(当時の北大は2年後期に学部学科が決まった)、物事の見方・考え方も目に見えて変わって来るようで、私のように先の長い学部は非常に特殊だと痛感したものでした。

今振り返っても、寮の6年間は学ぶことの多い貴重な体験であったと思っています。